

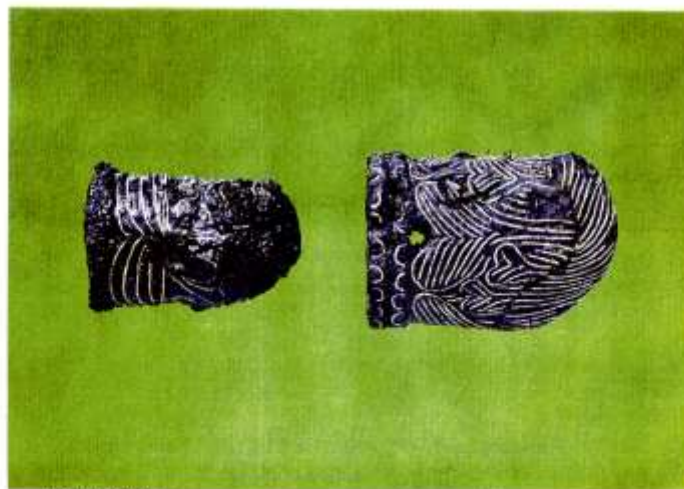
ぎんぞうがんとつかがしら  
銀象嵌柄頭の世界

広川町には、町域東部の耳納山脈西南麓から派生する独立小丘陵上に、多くの中小古墳群が200基近く点在していました。その後の開発により現存する古墳群は激減しましたが、調査された古墳群のなかには豪華な副葬品をもつものもあります。

昭和60(1985)年に調査された「鬼塚2号墳」がこの事例にあてはまるでしょう。6世紀後半に築造された古墳の石室からは、豪華な2組の馬具と2振りの大刀が出土しました。特記すべきはこの鉄刀の銀象嵌柄頭です。

柄頭のひとつは心葉形文、いまひとつは花文と簡略化された心葉形文があしらわれています。このように柄頭に施された象嵌は、全国的には30例近くの出土がありますが、福岡県内では6例が発見されています。そのうちの3例が広川町出土です。前述の鬼塚2号墳からの2例と鈴ヶ山2号墳出土の1例(亀甲繫ぎ鳳凰文)です。

銀象嵌を施された大刀を出土する古墳の被葬者は、その豪華な副葬品にふさわしい地域の実力者と思われ、広川町では八女丘陵の筑紫君磐井一族との関係を考える上でも興味深いものです。



2号墳出土銀象嵌柄頭

鬼塚2号墳出土の銀象嵌柄頭2例